

平成 26 年 8 月 6 日

浜田市議会議長 原田 義則 様

福祉環境委員会委員長 芦谷 英夫



### 委員派遣報告書

下記のとおり、派遣しましたので報告します。

#### 記

1. 期間 平成 26 年 7 月 1 日(火)～7 月 3 日(木)

2. 場所及び目的

(1) 山梨県北杜市

①介護予防・日常生活支援総合事業の取組について

②地域のみまもりについて(あんきじゅんネットワーク)

(2) 岩手県遠野市

①子育て支援について

遠野わらすっこプランの概要とその取組他

(3) 青森県八戸市

①環境にやさしいまちづくりについて

環境啓発事業の概要(環境教育の推進・環境展など)

木質ペレットストーブ導入支援事業について

小型電子機器等リサイクル回収について

3. 精算額 一人当たり 110,390 円

4. 派遣委員名

芦谷英夫・田畠敬二・足立豪・柳楽真智子

道下文男・平石誠・濵谷幹雄・西村健

5. 調査の概要 別紙報告書のとおり

平成 26 年 8 月 1 日

浜田市市議会議長 原田 義則 様

### 福祉環境委員会行政視察報告書

下記のとおり、視察を行いましたので、その結果を報告いたします。

#### 記

1 : 期 間 平成 26 年 7 月 1 日 (火) ~ 7 月 3 日 (木)

2 : 視察先 (1) 山梨県 北杜市  
(2) 岩手県 遠野市  
(3) 青森県 八戸市

3 : 参加者

芦谷英夫・田畠敬二・足立 豪・柳楽真智子  
道下文男・平石 誠・澁谷幹雄・西村 健

4 : 調査項目

(1) 山梨県北杜市

- ①介護予防・日常生活支援総合事業の取組について
- ②地域のみまもりについて(あんきじゅんネットワーク)

(2) 岩手県遠野市

- ①子育て支援について

遠野わらすっこプランの概要とその取組他

(3) 青森県八戸市

- ①環境にやさしいまちづくりについて

環境啓発事業の概要(環境教育の推進・環境展など)

木質ペレットストーブ導入支援事業について

小型電子機器等リサイクル回収について

## 山梨県北杜市

### ○ 市の概要

山梨県の北西部に位置する北杜市は、人口 48,682 人、面積 602.89 km<sup>2</sup>で、北は八ヶ岳連峰、南は甲斐駒ヶ岳からなる南アルプス、東は茅ヶ岳などの日本を代表する美しい山岳景観に囲まれている。また、清らかで豊富な水資源、高原性の気候、日本で一番長い日照時間歴史的な街並みや滞在型温泉地、高原リゾート地など、豊かな資源に恵まれた地域である。

平成 16 年 11 月 1 日に、峡北地域の明野村、須玉町、高根町、長坂町、大泉村、白洲町、武川村の 7 町村が合併し、人口 4 万 4 千人の市として「北杜市」が誕生しました。

その後、平成 18 年 3 月 15 日に小淵沢町と合併し、人口 5 万人の新「北杜市」が新たにスタートした。

市の名称「北杜」は一般公募により、平成 15 年 8 月に決められた。

### ○ 市議会の概要

議員定数	条例定数：22 人 現員数：22 人
議員任期	平成 24 年 11 月 28 日～平成 28 年 11 月 27 日
正副議長	議長 渡邊 英子 副議長 坂本 静
会派	・ 北杜クラブ 5 人・ほくと未来 5 人・明政クラブ 3 人 ・ 市民フォーラム 3 人・公明党 2 人・日本共産党 2 人 ・ 無会派 2 人
議会運営委員会	8 人（任期：2 年）
常任委員会	・ 総務常任委員会 8 人・文教厚生常任委員会 7 人 ・ 経済環境常任委員会 7 人
特別委員会	広報編集委員会 9 人

### 《調査の内容》

冒頭に、渡邊 英子議長より歓迎の挨拶を受ける。

その後、介護予防・日常生活支援総合事業の取組についてを、中嶋 登美子 介護支援課長に。地域の見守り（あんきじゃんネットワーク）についてを、中山 雅史 福祉課長と田中 佐記子 福祉担当に説明していただいた。

## ○介護予防・日常生活支援総合事業について

高齢化率 33.3%は県内 13 市の中でトップとなっている。現在は後期高齢者が多いが、これから約 3 年間くらいは前期高齢者が増加しそうである。

合併した 8 市町村すべての介護施設があるため、介護施設に恵まれている市である。合わせて 620 床くらいのベッド数はあるが、それでもなお 530 人ほどの待機者が居るという状況となっている。

平成 22 年度に日常生活圏域ニーズ調査を行った際、「外出は週に 1 回以下」や「行く場所がない」などの回答が多くかった。この状態が続けば高齢者の健康が損なわれると考えた。国は平成 24 年に介護予防・日常生活支援総合事業をスタートさせ、全国で 27 市町村のうちの一つとして手を挙げ、わが市でも現在の介護予防・日常生活支援総合事業の取組を始めた。それが通所型予防サービス（ふれあい処北杜）と配食+安否確認（緊急連絡を含む）の生活支援サービスである。

ふれあい処北杜の建物は、以前は診療所の職員の宿舎であった建物を改修したものなど、23 年度地域支え合い体制づくり事業で整備した。8 カ所の高齢者活動拠点で通所サービスを開始。事業委託先は、NPO 法人・社協・介護保険事業所・任意団体等で、介護保険外の高齢者を対象に、週 1~2 回程度の開催。交流・会話・趣味・体操など、事業所の特性を生かした活動を行っている。

生活支援サービス（あんしんお届けサービス）では、ヘルパーが訪問する程ではない高齢者宅に、弁当業者・ボランティア・NPO 等が配食の際、利用者に声かけをして安否確認を行う。異常があった時の連絡が義務づけられている。

高齢化率は高いものとなっているが、介護認定率は 10.8%と低くなってきていくことから、この事業の効果が現れているものと考えている。今後も維持していきたい。

平成 23 年度から、介護支援ボランティア事業を開始。団塊の世代が高齢化を迎える時期にあって、高齢者の社会参加を促し、介護予防を促進させていく。また、高齢者の介護支援ボランティア活動による、地域貢献を積極的に奨励、支援することにより、実質的な介護保険料負担の軽減につなげることを目的としている。介護支援ボランティアには、1 時間程度の活動で 1 スタップ、1 日 2 スタップが上限となっており、1 スタップにつき 100 ポイント付与。1000 P ~ 4,900 P は 1000 円~4,900 円。5,000P 以上は 5000 円の活動交付金が支払われる。

年間 5,000 円が上限となっているが、ボランティアの方からは金額の問題ではない。社会参加ができて自分なりの地域貢献ができればいいとの声があり、喜んで活動されているようである。

ボランティア事業を通して元気な高齢者が増え、互助・共助による地域づくりへの意識が広がることが期待されるとともに、介護申請者の減少、介護給付費の抑制が期待できる。

#### ○地域の見守りについて（あんきじやんネットワーク）

あんき＝「気軽・安心」、じやん＝「行こう・やろう」という甲州弁である。

全国で孤立死の事例が頻発し、親子、夫婦、姉妹で亡くなっていたケースもあり、北杜市でも高齢化率の上昇・高齢世帯の増加や、複合的な課題を抱えた世帯の存在が見えてきた。孤立死の悲劇が起こらないようにとの思いから、市から警察署・消防署・民間事業者などへ出向いて、この事業の立ち上げについて説明して回った。

平成24年8月22日に、新聞店・宅配業者・商工会・電力会社・ヤクルト・郵便局・生協など、民間事業者16社と締結を結び、警察署・消防署・民生・児童委員と連携をとって行っている。この事業は県の補助事業で、地域コミュニティ復興支援事業という全額補助の事業である。

見守りにあたっては、「見張り」ではなく、あくまでも「見守り」であり、

- ① 業務に支障のない範囲で、自身の身に危険を感じるような場合は、深入りしない。
- ② 通報するかしないかの判断は、事業者の皆さん の「気付き」に委ねる。
- ③ 通報を行わなかった場合でも、その後生じた問題等について、責任を問うことはない。

上記の内容を民間事業者にお願いした。

また、事業者が北杜市に通報を行っても、基本的に個人情報保護法に抵触する



【北杜市会議室】

ことはないこと。ただし、見守り活動の中で知り得た情報を、他に漏らすことのないように確認した。

警察からは、おかしいなと感じたら、ためらわずに通報してほしいと言われている。

平成 24 年に 4 件、平成 25 年に 6 件の通報があったが、幸い問題はなかった。昨年度の大雪の際には、高齢者宅の玄関先に雪がたくさん積もっていて心配だから、雪かきをお願いしてほしいという通報もあった。

この事業を通して、民間事業者の高齢者に対する意識が高まった。などの説明を受けた。

#### ○委員からの質問

- 問い合わせ 地域包括支援センターは何ヵ所あるのか。また、65 歳以上の方の介護保険料はいくらか。介護保険者はどこなのか。
- 答え 直営 1 カ所で行っている。介護保険料は標準が 3,833 円である。介護保険者は北杜市である。
- 問い合わせ 今後の状況を考えると、介護保険料の値上げもあると思うが、どのように考えておられるのか。
- 答え 値上げしないためには、現状の介護認定率 10.8% を維持することが大前提だと考えている。次の 3 年間はさほど値上げしなくてよいと思うが、10 年先のことを見据えた時には、少し値上げも考えた方がいいのかなども思う。
- 問い合わせ 今後、地域包括支援センターを複数設置する考えは。
- 答え 現在の地域包括支援センターの設置場所が市の外れにあり、職員が訪問するのに片道 30 分くらいかかる。日常生活圏域が 2 カ所なので、せめてそれくらいはあった方がいいのではと考える。もう 1 カ所は社協に委託ということもあるかと思う。
- 問い合わせ 介護支援ボランティアの活動交付金を上げると、活動が進むのでは。
- 答え 現在は通所介護と生活支援サービスだけであるが、要支援の部分が市町村に降りてくると、訪問支援にもボランティアの力を借りなくてはいけなくなると思う。交付金を増やすことでボランティアの方が増えることも考えられると思う。
- 問い合わせ 高齢者の独居率は。あんきじやんネットワークの成果は。筋力アップ事業の取組の効果は。
- 答え 高齢者の 5 人に 1 人が独居となっている。年度末に民間事業者の方たちと連絡協議会を行っている。地域の方も安心されるが、見守りをする側の意識がとても高くなっていることは、大きなメリットだと考える。
- 筋力アップ事業は年内 3 カ月、動きやすい時期に行っている。介護事業に当たるまらない方に行うチェックリストをもとに、筋力の衰え

ている方に対してそれぞれの状況に合った目標を設定している。2次予防の取組として介護認定を遅らせるために効果的であり、今後も広げていきたい取組だと考えている。

などの説明をいただいた。

今後、介護保険制度が変わり市町村の取組が大変重要となる。説明にもあったように高齢者に元気であるということは、本人や家族はもとより、地域社会も活性化して介護保険料の自己負担も、介護保険事業の負担の軽減にも繋がる。

先を見越した取組が大切だと実感した。

### 《参考》

※介護事業所 74 カ所 ( 訪問系 8 , 通所系 21 )

居宅介護支援事業所 15 カ所 ( 特定事業所 2 カ所 ; 社協 )

#### 介護施設

特別養護老人ホーム 4 カ所 ( 355 床 )

老人介護保険施設 3 カ所 ( 260 床 )

介護療養病床 1 カ所 ( 24 床 )

## 岩手県遠野市

### ○遠野市の位置

東北地方の岩手県にあり、位置的には盛岡市より南東に位置し、北上高地の真ん中に位置している。

北上川の支流である猿ヶ石川上流に位置し、この川のさらに支流の川が作った盆地にある。

### ○遠野市の歴史

「遠野」の語源は、アイヌ語の「トーノヌッップ（湖の周りの小高いところ）」からきていると言われている。

遠野市は、縄文時代の遺跡が多く、この時代は多くの縄文人が住んでいたものと考えられる。

江戸時代には、「盛岡南部」氏の一族である「八戸南部」氏が、八戸から遠野に移り、領主となりこの地を治めた。領内において多くの金がとれたものの、米の収穫は少なかったようである。「やませ」など悪い気象条件もかさなり、不作・凶作・飢饉といったものが頻発し、一揆も多く起きたことが資料から分かっている。

明治時代には、一時期「江刺県」となるものの、後に、「岩手県」となった。現在の遠野市内にあたる地域は、町として「遠野」、村として「上郷・青笹・土淵・松崎・附馬牛綾織・小友」ができる。遠野には、上閉伊郡役所を始め、様々な行政官庁がおかれた。

1954年、遠野町と7村が合併して遠野市となり、2005年宮守村を合併し、現在に至る。

#### ○遠野市の概要

面積	825.62km <sup>2</sup>
総人口	29,226人（平成26年6月） 10,880世帯
隣接自治体	釜石市、花巻市、奥州市、宮古市、気仙郡住田町、上閉伊郡大槌町
市の木	いちい
市の花	やまゆり
市の鳥	やまとり
所在地	〒028-0592 岩手県遠野市東館町8番12号

#### ○遠野市議会の概要

議員定数	条例定数：18人 現員数：20人 ※次期選挙から18人
会派	遠野一新会（3名）新興会（5名）清風会（5名）緑風会（3名） 無会派（4名）
常任委員会	総務常任委員会 6人 教育民生常任委員会 7人 産業建設常任委員会 7人 広報広聴常任委員会 7人
議会運営委員会	7人（任期4年）（定数7人）
政務活動費	議員一人あたり月額5,000円

## 《調査の内容》

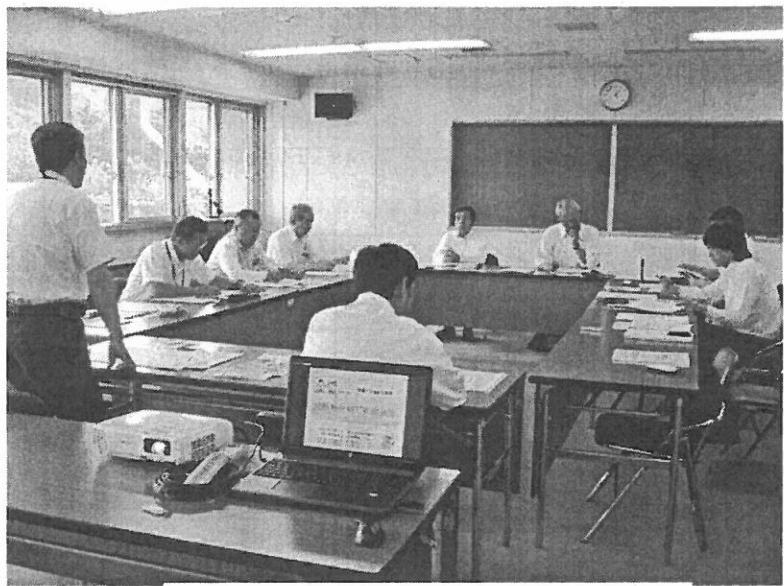
会議の冒頭、子育て総合支援センター 菊池幸市所長より歓迎のあいさつを受ける。その後、調査内容の概要説明を受ける。

### ○遠野わらすっこプランの概要とその取組について

#### 【概要説明内容】

### ○問題

- ・止まらない少子化・出生数が 200 を切っている・第3子以降の子供の数が減少傾向・進む晩婚化
- ・人口減少と世帯人数の減少  
(問題の多くは、全国の自治体が抱えてる大きな問題と共通)



【遠野市議会会議室】

### ○課題

- ・少子化がもたらす様々な影響
  - △子供たちの健やかな成長への影響
  - △さらなる過疎化の進行、地域社会の変容
  - △労働人口の減少
  - △現役世代の負担増など

### ○解決策

- 「総合計画において明確な目標の設置 合計特殊出生率 2.08」
- ・目標数値に近づくような具体的な政策の取組



## ○様々な政策

### ◎遠野市助産院「ねっと・ゆりかご」

モバイルCTG装置・調音場診断装置など、遠隔検診で医療機関と連携

### ◎児童館・児童クラブの料金無料化

### ◎病時等保育施設の設置「わらっペホーム」

預ける側のことを考えて利用時間 8:00~18:00に設定

### ◎わらすっこ応援券の配布

子供の各種予防接種を受けるときに利用可能

### ◎ふるさと寄付等により基金を創設

基金を財源として様々な事業の推進

## 【感想】

子育て支援事業は、福祉行政の中でも最優先課題の一つとして各自治体が必死に取組でいるテーマである。

多くの自治体が過疎化・高齢化・少子化の問題を抱える中、遠野市では子育てを中心に市民に行政サービスを提供している。

「わらすっこ応援券の配布」や「遠野市助産院「ねっと・ゆりかご」」による医療機関の連携は、浜田市でも十分に参考になる政策の一つと考えられる。

市民において、安心した子育てができるることは、長期にわたり安定生活ができる重要な要素である。また、行政においても長期に生活をしてもらうことは人口流出を防ぐことができ、人口減少率のソフトライディングを目指した政策のパートを担うことができるとも考えられる。

遠野市はもとより、全国の様々な政策を勉強することが浜田市の活性化に向けた重要な取組に必要と感じることができた、内容の濃い調査であった。

## 青森県 八戸市

## ○視察に至った経緯

近年、全国的に生活様式の多様化に伴う身近な生活環境問題を始め、地球的規模での環境問題にも直面している。

浜田市においては、これら深刻な環境問題の解決へ平成22年3月に「浜田市環境基本計画」を策定したところではあるが、八戸市においても、熱心に環境問題に取組まれており、市の『環境に優しいまちづくり』の取組みを研修し

たいと考えた。

## ○市の概要

青森県の南部地方の中心都市で、面積305.4km<sup>2</sup>、人口237,927人であり、八戸都市圏は約33万人の人口を擁する。また商圏は隣接する岩手県北東部に及び、商圏人口は東北地方有数の約60万人を誇り、港町と工業都市の2つの特性を併せ持った街である。

伝統芸能の「八戸三社大祭」は日本一の山車まつりであり、7月31日から5日間市の中心部で開催される。また、2006年に開催した「B1グランプリ」発祥の地であり、第7回大会で「八戸せんべい汁」が見事グランプリに輝いた。そして、交通においては、26年前に東北自動車道が、11年前には東北新幹線が延伸開通して東京まで3時間で結ばれ、市の観光振興及び産業振興など経済発展に繋がっている。

## 《調査の内容》

### ○調査項目

#### 《環境にやさしいまちづくりについて》

八戸市では、市民が健康で潤いと安らぎに満ちた快適な生活を営むことができる環境を確保するため、市の環境の保全及び創造について基本的理念を定めた「八戸市環境基本条例」を平成16年に制定し、その実現のため、平成17年には「八戸市環境基本計画」を策定した。

さらには、市の環境施策だけでなく、市民・事業者の環境に配慮した行動の指針として、平成25年3月に「第2次八戸市環境基本計画」策定し、八戸が目指す環境像を「人と自然が共生する持続可能な都市 八戸」と定めた。

これは、人と自然との適切な距離感を模索しながら「共生」の実現を通じて、豊な環境を将来の世代に引き継いでいくことを目指すものであり、

① 経済活動を通じた環境負荷の低減

② 環境分野の技術革新による雇用や事業機会の創出

など、環境と経済の好循環を図りながら目指す環境像へと取組んでいる。

### ○視察内容

始めに、議会事務局の吉田幸司・局長から歓迎のあいさつを受け、環境政策課の和田智・主幹（資源リサイクルグループリーダー）及び推進グループの古川美生・主査から説明を受けた。

1) 環境啓発事業 --- 古川 美生 環境政策課（推進グループ）主査より説明

#### ■目的

将来的な環境問題の解決を図るべく、子どもたちが人間と環境との関わりについての理解と認識を深め、環境保全に対して責任ある行動が取れる態度や能力を身につける。

## ■内容

### ①市内小学校対象に環境学習会を実施

- イ) 3・4年生を対象として、「親水空間での自然体験」を現地体験で、人と自然との関わりを学習する。
- ロ) 4年生を対象として、「ゴミの減量とリサイクル」をゲーム形式で、家庭でできるゴミの減量・リサイクルについて、及び「生活排水対策」を実験形式で、水の大切さ・節水の必要性・生活排水対策について学習する。
- ハ) 5・6年生を対象として、「地球温暖化対策」をクイズなど交えながら、身近に取組める地球温暖化対策の具体的な方法を学習する。
- ニ) 環境学習会での市職員のサポートをしてもらうため、ボランティア補助員制度を導入（年度毎に登録制）する。

### ②環境展を開催

八戸市公会堂、及び公会堂文化ホールにおいて、

- イ) 環境についての市・N P O・企業等による展示コーナー
- ロ) 太陽光・風力等の発電体験
- ハ) バイオディーゼル燃料（廃食用油）発電による、わた飴づくりを、実施する。

### ③「環境月間行事」を実施

- イ) 「エコツアー」として、環境省が提唱する「環境月間」である6月に、一般公募した市民が環境にやさしい取組みを行っている企業や施設を見学する。

- ロ) 「せせらぎウォッキング」として、松館川にて市内の小学校5年生とで川底の石の下にいる生物を採取して、水質の判断をする。（環境省に報告）

### ④広報紙（広報はちのへ）による啓発

## ■評価

活動を通して、子どもたちの理解が浸透していることがうかがわれる。

### 2) 木質ペレットストーブ導入支援事業について --- 和田 智 環境政策課 主幹より説明

## ■目的

木質バイオマスの地産地消による、低炭素化都市の構築を図る。

## ■内容

### ①対象

- ・市内の住居か店舗に木質ペレット燃料のみを自動供給するストーブを設置する、

### ②補助額

- ・対象経費の1/3で、上限が15万円。

### ③実績

- ・平成25年6月3日～平成26年1月31日で、補助金交付件数が27件、補助金交付金額は332万円であった。

### ■評価

#### ④アンケート調査結果

##### ◇良い点

- ・匂いがなく、温かみがある。
- ・年間の暖房費が割安である。

##### ◇悪い点

- ・設備費が高い。
- ・維持管理が面倒である。

3) 小型家電リサイクルの実証事業について --- 和田 智 環境政策課主幹より説明

### ■経緯

「使用済み小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」が、平成25年4月より施行されたことを受け、環境省の平成25年度「小型電子機器等リサイクルシステム構築実証事業」として、南部町、階上町、及び八戸地域広域市町村圏事務組合「八戸リサイクルプラザ（破碎・選別等の中間処理施設）」と共同で小型家電のリサイクルに取組んだ。

### ■目的

家庭から排出される使用済み小型家電の、効率的な改修方法に取組む。

### ■内容

#### ①支援事業対象

##### イ) 回収体制を整備する上で必要な物品

- ・ピックアップ用選別コンテナ
- ・回収ボックス
- ・市民への広報（周知用チラシ、回収ボックス備え付けの「のぼり」）

##### ロ) 中間処理施設（八戸リサイクルプラザ）中間処理業者までの小型家電の運搬費

#### ②回収方法

##### イ) ボックス回収

市内の家電販売店1ヶ所、公共施設（公民館等）13か所へ設置。

##### ロ) ピックアップ回収

八戸リサイクルプラザにおいて、収集された不燃ごみの中から小型家電のピックアップを行った。

#### ③回収品目

家庭から排出される電池や電気で動く使用済み小型家電で、政令で定める28種類すべてを対象とした。但し、ボックス回収については、投入口（立て5cm×横25cm）に入るものに限るとした。

#### ④回収実績

##### ◇小型電子機器等 回収量

	合 計		ピックアップ回収		ボックス回収	
	個 数	重量 (kg)	個 数	重量 (kg)	個 数	重量 (kg)
八戸市	4,053	9,657	2,940	8,586	1,113	1,071
南部町	143	311	98	266	45	45
階上町	375	598	182	524	193	74
合 計	4,571	10,566	3,220	9,376	1,351	1,190

##### ◇資源回収量

	合 計		ピックアップ回収		ボックス回収	
	重量 (kg)	比率 (%)	重量 (kg)	比率 (%)	重量 (kg)	比率 (%)
プラ混合	2,957	28	2,607	28	355	30
鉄	2,683	25	2,484	26	199	17
コンプレッサー	1,109	10	1,109	12	0	0
基盤	803	8	559	6	249	21
モーター	744	7	718	8	26	2
合 計	10,567	100	9,378	100	1,189	100

##### ◇回収物分類・比率

	入荷量順位	個数 (個)	比率 (%)
台所用電気製品 (炊飯器、電子レンジ)	1	618	13.5
理容用機器 (ヘアドライヤー、電気カミソリ)	2	426	9.3
音響機器 (オーディオプレイヤー、ステレオ)	3	399	8.7
空調用電気機器 (扇風機、除湿機)	4	386	8.4
映像機器 (デジタルカメラ、ビデオ、DBDプレイヤー)	5	321	7.0

## ■課題

### イ) ボックス回収

- ・電池、蛍光管、ゴミ等の異物の混入、ボックスに入らないものを外に置かれた。
- ・個人情報の保護対策の徹底が必要。

### ロ) ピックアップ回収

- ・八戸リサイクルプラザのヤードに収集された不燃ごみをピックアップしているので、作業負担の軽減、効率化が必要である。

## 4) 質疑 応答

委員より、①『環境啓発事業』、②『木質ペレットストーブ導入支援事業』、③『小型家電リサイクルの実証事業について』と事業ごとに順次質問があり、特に『小型家電リサイクルの実証事業』については、八戸リサイクルプラザの事業についての係わり方など多くの質問があった。古川主査、及び和田主幹よりそれぞれ明快な答弁を頂き、有意義な視察であったと感じた。

## 5.まとめ

八戸市においては、早くから環境事業に取組んでいて、平成21年2月には東北電力が八戸火力発電所敷地内に出力約1,500kWの大規模太陽光発電施設の建設、また22年1月には石油元売り大手の新日本石油（現・JX日鉱日石エネルギー）がポートアイランドの拡張区域に液化天



【八戸市庁前にて】

然ガスの北海道・東北地方の拠点となるエネルギー基地建設（2015年4月開始予定）を発表するなど、地球温暖化対策の起爆剤として、さらに関連産業への波及効果に対しても期待が寄せられている。浜田市としても、環境事業の先進地として学ぶものが多いと感じたところである。

おわりに、今回の視察に於いて、八戸市さんには、非常に分かりやすい丁寧な資料を作成して頂いて、心よりお礼を申し上げる次第です。